

年度 2009 学期 前期	曜日・校時 金・1	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	言語と芸術/日本音楽概論(Language and Art “Japanese Tradition Music”)		
対象年次 1・2年次	講義形態 講義	教室 教育学部音楽棟第2教室	
対象学生(クラス等)	全学部	科目分類 人文・社会科学科目	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員:福井昭史 /Eメールアドレス:a-fukui@nagasaki-u.ac.jp /研究室:教育学部音楽棟2階/TEL:095-819-2342 /オフィスアワー:金曜日の10:30~12:00			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい:日本の伝統音楽及び芸能についての基礎的な知識を獲得する。日本の伝統音楽の各種目について、代表的な楽曲を鑑賞しながら、演奏形態、伝承者、表現内容、音楽上の特徴など、その特質を理解する。受講者は、芸能や楽曲を視聴したり聴取したりし、その特質を感じ取ることが必要である。受講者が日本の伝統音楽に関する知識と音楽を感受する能力を身に付けることに授業の目的がある。 授業方法:雅楽から近代、現代邦楽に到る日本の伝統音楽の各種目について、その歴史や概要を解説するとともに、それぞれの代表的演目を鑑賞し、その特質を聴取できるようにする。 授業到達目標:日本の伝統音楽を聴取したり、視聴したりし、その種目や演奏楽器、音楽的な特徴などを説明できるようになることが目標である。			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要) 奈良時代以前にはその原型が成立していたとされる古い伝統をもつ雅楽をはじめとし現代に到る日本の伝統音楽には、数多くの種目がある。それらについて、各回で一つずつ取り上げ、その概要を学習する。 第1回 日本の伝統音楽の代表的な楽曲 ①日本の伝統音楽で最もポピュラーな楽曲「春の海」 ②民謡「黒田節」のルーツ 雅楽「越天楽」 ③無形世界遺産の能、文楽、歌舞伎 第2回 雅楽 ①「越天楽」と唐楽の奏楽器 ②雅楽の概要、「唐楽と高麗楽、国風歌舞」、「管絃と舞楽」 ③歌舞「五節舞」 第3回 天平の国際交流と正倉院の楽器 ①舞楽「胡徳楽」高麗楽の舞楽 ②中国の楽器と正倉院の楽器 第4回 仏教音楽、舞楽法要と声明 ①舞楽法要「精霊会」四天王寺 ②東大寺修二会の声明 第5回 仏教音楽と琵琶楽 ①天台声明(延暦寺) ②盲僧琵琶の系譜とくずれ ③平家琵琶、筑前琵琶 第6回 能楽の歴史と概要 ①「幸若舞」と「式三番」 ②能と狂言の鑑賞 第7回 歌舞伎の音楽、出囃子と下座音楽 ①歌舞伎「船弁慶」 ②長唄と黒御簾の音楽 第8回 三味線音楽、種類と特徴 ①三味線の伝来と発展 ②歌舞伎の三方掛合 第9回 三味線音楽、義太夫節と文楽 ①文楽について ②義太夫節について ③文楽の鑑賞 第10回 歌舞伎と文楽の音楽と表現 ①「奥庭・狐火の段」などの比較 第11回 箏曲の表現 ①箏曲の歴史と流派 ②箏とその表現 第12回 箏と琴の音楽 ①各種の琴と箏 ②近代邦楽・現代邦楽 第13回 尺八の音楽 ①尺八音楽の歴史と種類 ②尺八の表現の特質 第14回 郷土の音楽 ①民謡や郷土芸能の音楽 ②「ハイヤ節」系の民謡 ③太鼓の音楽 第15回 授業の総括(音楽や芸能の視聴や聴取を伴う試験を含む)			
キーワード			
教科書・教材・参考書	「よくわかる日本音楽基礎講座」 福井昭史著 音楽之友社発行		
成績評価の方法・基準等	日常の授業での学習態度及び参加状況(30%) テスト及びレポート等の提出物(70%)なお、テストは実音を伴うものとする。授業でそれぞれの音楽の特質を聴取し、理解していないと解答が難しい。毎回の授業への出席と集中力が必要である。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)			